検証と報告書保証

スコープ 3 排出量の効率的な対応

課題の理解と克服



はじめに

世界のリスク状況は変化しており、組織や社会全体が直面する ESG（環境、社会、ガバナンス）の課題に対する認識も高まっています。ESG に対する組織 の資質を向上させ、ベストプラクティスを採用することで、組織は透明性への取り組みをしっかりと見せるだけではなく、効果的な風評管理や規制の遵守、投資、顧客満足度の向上によるメリットを得ることができます。

組織が包括的なサスティナビリティ戦略に向けて努力する中で、スコープ 3 排出量への対応は極めて重要です。スコープ 1 と 2 の排出量は広く認識されている一方、スコープ 3 の排出量はさらに注意を要する場合がある特有の課題を呈しています。本資料ではサプライチェーン全体におけるスコープ 3 排出量の算出と削減 の複雑性について探り、組織が自社のカーボンフットプリントのこの見落とされがちな側面を認識し、対処する際に直面する課題に焦点を当てています。



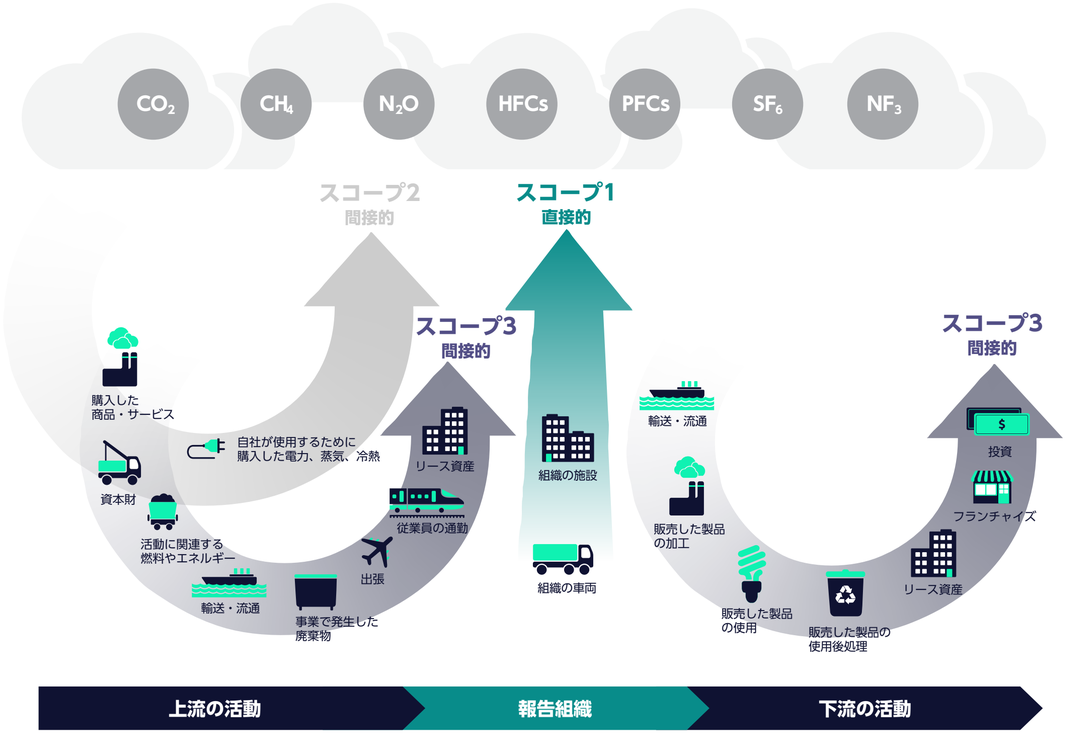
スコープ 3 の排出量を理解する

スコープ 1
スコープ 1 の排出量は、組織が所有する車両や、自社の製造プロセス、暖房システムにおける化石燃料の燃焼といった、一組織が所有し管理する 敷地内の排出源に由来する温室効果ガスの直接的排出を表します。

スコープ 2
スコープ 2 排出量は、組織が消費する購入または取得した電気、熱、蒸気の生成に関連する間接的な温室効果ガス排出量を対象としています。これらの排出は、第三者の公益事業施設で発生しますが、エネルギー消費を通じて組織の活動と関連付けられます。

スコープ 3
スコープ 3 排出量とは、サプライチェーンで発生し、報告組織が直接所有または管理していない間接排出量を指します。これらの排出量は、その拡散性と多様な発生源により、特定、測定、管理が困難です。例としては、従業員の通勤による排出、購入した商品、その他の間接的な活動による排出が挙げられます。

スコープ 3 の排出量はサプライチェーンの排出量の少なくとも 75% を占めており、不正確な報告は、組織全体のカーボンフットプリントに対する誤解を招く恐れがあります。



上流でのスコープ 3 排出
- 購入した商品・サービス
- 資本財
- スコープ1、スコープ2に含まれない燃料およびエネルギー活動
- 輸送・流通（上流）
- 業務で発生する廃棄物
- 出張
- 従業員の通勤
- リース資産（上流）

下流でのスコープ 3 排出
- 輸送・流通（下流）
- 販売した製品の加工
- 販売した製品の使用
- 販売した製品の使用後処理
- リース資産（下流）
- フランチャイズ
- 投資

課題は何か?

スコープ 3 排出量を理解するという課題を克服することは、透明性を高め、組織の ESG 目標を果たし、利害関係者との信頼を築くのに役立ちます。

1. **コントロールや影響力の欠如**
   スコープ 3 の排出は組織が直接コントロールする以外の活動に由来していることが多く、こうした排出に対して効果的に影響力を及ぼし管理するのは難しくなります。

2. **データの収集と正確性**
   スコープ 3 の排出量に対する正確なデータの収集は、外部の当事者が関与しており、サプライヤーやパートナー、従業員からの包括的な情報が必要なため、難しくなる可能性があります。

3. **有意義な目標の設定**
   スコープ 3 の排出削減に向けて現実的かつ有意義な目標を設定するには、バリューチェーン全体を深く理解する必要があり、これは大きな課題となることがよくあります。

4. **リソースの制約**
   多くの組織、なかでもより小規模な組織は効果的にスコープ 3 の排出に対応するための予算、専門知識、テクノロジーといった点でリソースの制約に直面する場合があります。堅牢な排出削減戦略を実施するには、テクノロジーやトレーニング、利害関係者の関与への投資を要することがしばしばです。

スコープ 3 排出量の効率的な対応

スコープ 3 の排出量は、多くの場合、組織のカーボンフットプリントの総量のうち、かなりの部分を占めています。スコープ 3 の排出量をうまく管理するためには、組織は以下を考慮する必要があります。

協力的なパートナーシップ

サプライヤーや利害関係者、従業員との強固な協力関係を構築すると、透明性や情報共有を促し、スコープ 3 の排出に対するより正確な評価が可能になります。

テクノロジーの融合

データアナリティクスやサプライチェーン管理ツールなどの先進テクノロジーを活用し、スコープ 3 の排出に関するデータの収集と分析を効率化することができます。

従業員の関与

柔軟な働き方を採用し、サステナブルな通勤方法を奨励し、意識を高めることにより、従業員の通勤による排出量を削減する取り組みを導入可能になります。



ケーススタディ

Mott MacDonald 社

世界的プレゼンスのある大組織として、Mott MacDonald 社は排出源を特定し、野心的な削減目標を設定し、利害関係者をサスティナビリティの行程に関与させる必要性が最優先事項になってきました。国際規格と整合させ、排出量の報告における透明性を実現することは、複雑な取り組みであることが明らかになってきました。

LRQA は、Mott MacDonald 社と緊密に協力して、スコープ 1、2 および 3 の排出量を網羅する包括的アセスメントを行いました。ISO 14064 および PAS 2080 の枠組みを用いて直接排出量、エネルギー関連の排出量、およびバリューチェーンからの間接的なスコープ 3 の排出量を特定することで、Mott MacDonald 社の環境影響に対する十分な理解を確実にしています 。

「ISO 14064 および PAS 2080 は 2 つの重要な理由から当社のカーボン削減計画の中心となっています。当社は科学的根拠に基づいて設定した目標に対する進捗を正確にモニタリングしているという確信を得たいと考えており、認証取得は我々のお客様や同業者に対し、こうした取り組みを真剣に行っていると示すものです」

ベッサン・ハッチンソン | Mott MacDonald 社
シニアアドバイザー

GHG 排出量の報告と監視

ISO 14064

ISO 14064 は、正確で透明性があり、一貫した温室効果ガス排出量データを組織が構築し、維持するのに役立つ体系的な枠組みとなります。組織レベルでの温室効果ガスの排出や削減の定量化と報告に関する原則や要件を概略します。国際的に広く認められているアプローチである ISO 14064 により、組織はそのサプライチェーンにわたり排出量を着実に比較して伝え、信用を高め、透明で説明可能なサスティナビリティ戦略への取り組みを証明することができます。

詳細はご連絡ください

PAS 2080

カーボンマネジメントに焦点を当てた PAS 2080 は、インフラプロジェクトにおける炭素管理の指針と枠組みをもたらします。これには輸送やエネルギー関連、水関連、その他重要なインフラプロジェクトがあります。PAS 2080 により炭素が重要ポイントで一貫して効果的に定量化され、炭素データをサプライチェーンにわたり透明性をもって共有することができます。

詳細はご連絡ください

最も大切な人々との信頼を築きましょう

組織が包括的なサスティナビリティに向けて努力する中で、スコープ 3 の排出量への対応は極めて重要です。課題を認めて有効な戦略を導入することで、組織はその利害関係者との間に信頼と透明性を確立しながら、効果的な排出管理へと進むことができます。

LRQA の専門家は組織のデータや情報、報告書を独立して検証することでそのサプライチェーンにおける信頼と信用を促し、組織が急速に変化するリスクに適応できるよう支援しています。

詳細はご連絡ください



YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

LRQA について

LRQA は、審査、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集した、世界有数の保証パートナーです。データ主導の洞察力を基盤として、お客様の最大のビジネス課題の解決を支援しています。

150カ国以上で5,000人以上のスタッフが活動するLRQAは、受賞歴のあるコンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESG の専門家が、ほぼすべての業種にわたる 60,000 人以上のクライアントが事業を展開するあらゆる場所で、リスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQA は、あらゆる業務において、従業員、お客様、地域社会、そして地球環境のより良い未来の実現に尽力しています。

お問い合わせ

詳細については、https://www.lrqa.com/ja-jp/ をご覧ください。

LRQA リミテッド
〒 220-6010
横浜市西区みなとみらい 2-3-1
クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。
LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については www.lrqa.com/entities をご参照ください。
© LRQA Group Limited 2024